

〈合格体験記〉

## 司書職採用試験合格体験記

文学部 文学科 (2018年度卒) M. T

### 1 はじめに

私は2019年3月に文学科を卒業し、そのまま明治大学の文学研究科に進みました。そして2021年3月に修士課程を修了し、公立図書館に司書職として採用されました。

修士論文を書きながらの粗削りな就職活動だったとは思いますが、(そしてもう2年前のことであまり覚えていませんが、) どうか思い返して体験記を書こうと思います。

### 2 試験の前段階

司書職採用試験の前に私がしていた二つのことがありますので、参考までに記載します。一つ目は、「JLA 日本図書館協会」のHPで「図書館職員求人情報」をチェックすることです。就職活動期間にも大変お世話になったサイトですが、私はその前から定期的に見るようにしていました。

「公共」「大学」「専門」の図書館司書の募集が掲載されており、多くは非正規雇用(会計年度任用職員等)の募集ですが、なかには正規職員募集も掲載されています。司書に求められるスキルや募集人数の傾向がチェックできると、図書館業界の募集状況を掴むために、活用していました。

二つ目は、「検索技術者検定3級」の取得です。司書課程の講義の際にこの検定について知り、2019年度の試験を受けました。ネットワーク情報源の種類や著作権等、司書として働く今になって思えば、司

書の実務に生きる知識の基礎的な勉強ができる検定だったと思います。

### 3 受験数とスケジュール

大学図書館と専門図書館を複数、公立図書館(自治体)を五つと、国立国会図書館を受験しました。

大学図書館と専門図書館の募集については、日頃から「図書館職員求人情報」をチェックしていました。大学図書館は事務職としての募集が多く、公務員試験よりも日程が早いことが多いです。そのため面接対策の意味も含めて応募していました。専門図書館は、特徴的な資料を扱う図書館のうえ、募集時期も不定期です。「なぜこの図書館で働きたいと思ったのか」を明確に説明できるといった機関にのみ応募していました。

公立図書館については、6月から10月頃が募集・試験期間でした。私が受けた自治体は、一次試験が教養と専門、二次試験が面接という試験構成が多く、いくつかの自治体は一次と二次の間に適正検査があります。コロナ禍という事もあって、一次試験がオンラインという自治体もありました。私は、二次面接まで進んだ自治体が四つ、最終的には二つの自治体から合格の連絡をもらいました。

### 4 教養試験

修士二年の5月頃から試験勉強を始めたのですが、もう少し早めに始めた方が、余

裕をもって対策ができると思います。数的処理と判断推理が苦手だったので、それぞれテキストを一冊ずつ購入しました。英語と国語、歴史などの文系科目は、高校レベルのものなら不安はなかったので特別な試験対策はしていません。化学や物理などの理系科目は中学以上の知識がなかったので、色々な自治体の過去問題を解くことで出題の割合や傾向を掴み、出題されそうな分野のみをピンポイントに勉強しました。

出題は多くがマークシート形式で、内容は高校で学習するレベルのものが多いと思います。大学受験と同じように、とにかく試験に慣れること、過去問を解いて傾向を掴むことを中心に対策しました。問題数が多く一問にかけられる時間が限られるのと、出題分野が幅広いため、取れる問題を確実に取ることを意識していました。

## 5 専門試験

試験対策は修士一年の2月頃から始めました。問題は選択形式と論述で、自治体によっては論述のみの場合もあります。

選択形式は、司書課程の講義のレジュメを中心に勉強をしました。司書課程の初年度に受けていた概論系や図書館史等は、基礎的な部分を忘れがちだったので、「JLA 図書館情報学テキストシリーズ」を購入して復習しました。

論述対策はとにかく過去問を解きました。また、論述できる材料を増やすために、日頃から以下の二点を意識していました。

①「JLA 日本図書館協会」のサイトや「カレントアウェアネス・ポータル」(国立国会図書館)等を確認し、図書館業界の動向に常に目を配ること

②そうしたHPの情報や試験対策の過程で知った図書館サービスの現状について、自分なりの意見・問題意識を持つこと

こうして書くと難しいことのように見えますが、実際やっていたのは小さなことばかりです。私の場合は、通学する電車内の空き時間に図書館関連のサイトをチェックする、それを見て思ったこと・考えたことを、メモ帳に一言でも書き留めておく、ということを行っていました。

また「司書職採用試験対策のための勉強会」にも参加しました。これは明治大学司書課程・司書教諭課程で定期的に行われている勉強会です。試験の傾向把握と対策、模擬面接等をしていただきました。図書館業界の動向についての情報も得られるので、論述試験対策として図書館や司書についての自分の考えを深める際にも参考になり、同じく司書を目指す人との交流という意味でも貴重な機会だったと感じます。

## 6 面接試験

私が受けた自治体は、いずれも面接官が三、四人ほどの個別面接でした。面接は、事前に記入する面接カードを使用して行われます。「力を入れて取り組んだこと」「志望理由」「採用されたらやってみたいこと」等をあらかじめ記載し、その記載内容をもとに話が進んでいくという流れです。そのため、うまく受け答えできる自信がない話題や付け焼刃の内容は、書かないことをおすすめします。特別なことを書く必要はないので、質問内容に正直に、自分が興味を持って話せることを書くと面接でも話しやすいと思います。

面接の対策としては、主に二つのことを、意識していました。

一つ目は、数をこなすことです。私はとにかく面接が苦手だったので、模擬面接だ

けでなく、実際の面接に慣れるために一般企業も受験しました。もちろん第一志望でないからおざなりにするのではなく、司書になれなかったらここで働きたいという企業を選びましたし、面接前の準備と面接後の反省はしっかりと行いました。例えば、「なぜこの会社を選んだのか」という志望動機は、公務員の司書職採用試験においては「なぜこの自治体を選んだのか」という部分にあたります。その会社について詳しく調べて考える、という作業を繰り返したことが、自治体の志望動機を明確にする過程で役に立ちました。司書職は募集がそう多くないので、希望を司書職に絞っていると、試験の経験を積みにくい傾向があります。基本的な面接のマナー等を身体に染みこませるためにも、一般企業の採用試験でたくさん面接を経験できたことは、私にとっては大きかったと思っています。

二つ目は、専門試験対策と同じです。図書館業界の動向に目を配り、自分なりの意見・問題意識を持つことです。ただその際、漠然と意見を持つだけでなく、自分の意見をノートにまとめて言語化していました。論述試験にも役立ちますし、面接で緊張してうまく話せないという人は、自分の

意見を繰り返し目にしておくことで、言葉が出てきやすくなると思います。

## 7 おわりに

公務員司書職の試験は特に時期が遅く長期間にわたるため、心理的にも体力的にも負担がかかります。無理をし過ぎず、時には学友や先生など周りの人を頼りながら、自分のペースで就職試験を進めていくことが大切だと思います。

私は修士二年の11月に今いる自治体からの合格通知をもらうまで、一つも内定をもらっていませんでした。就職できないかもしれないという不安ばかりの日々でしたが、それでも、もし司書職採用試験に受からなかったら、アルバイトをしながら勉強して、翌年もう一度試験を受ければいいと、前向きに考えるようにしていました。

明治大学で学んだ私たちですから、選ばなければ、何かしらの職には就けると思います。それでも「司書になりたい」と思った、その熱意をどうか忘れずに、頑張ってください。就職試験は厳しいですが、今がきっと踏ん張りどころです。

皆さんの合格を心より願っています。

## 司書職就職体験活動記

文学部 文学科 4年 Y. S

### はじめに

私は今年度、国立大学法人図書系での採用が決まりました。ここで合格までの経緯を書かせていただこうと思います。私の経験がこの文章を読む方の何らかの一助になれば幸いです。

### 概要

司書として正規で働くには、公共図書館か大学図書館が主な就職先となります。その中でも大学図書館員になるには、私立大学は司書としての募集がほぼないため、新卒で正規職員として働くには国立大学法人を目指すこととなります。(ちなみに明治大学は中途採用であれば図書館員としての採用もしているようです。)私は、大学3年生のときに受講した図書館実習での経験から大学図書館で働きたいと考え、国立大学法人を第一志望として就職活動を行いました。また他にも、調布市、国立国会図書館、神奈川県、東京都(行政と司書)、埼玉県の採用試験を受験しました。調布市以外は基本的に教養試験と専門試験、面接試験が課されます。調布市だけは特殊で、企業のようにエントリーシートの後SPIを受け、面接を受けるという試験内容でした。近年はこのような採用方法の自治体も増えているようです。

国立大学法人はまず地区別に採用試験を受けます。一次試験は全国共通ですが、申し込み時に採用地区を選択し、二次試験はその地区の大学の採用試験を受けることに

なります。ここでどこの機関からも合格をいただけなかった場合は、希望届を出して追加募集を待つことができます。そして一通りの採用が終わった10月ごろに追加募集が出ることがあります。この募集は全国の大学から行われ、一次募集の地区に関係なくどこでも申し込むことができます。私はこの追加募集で合格をいただきました。国立大学法人は近年、団塊世代の定年退職により採用口が増えていると言われており、実際数年前に比べると採用人数は多い方でした。しかし、それでも狭き門であることには変わりありません。長くつらい就職活動にはなりますが、もし最初の募集に受からなくても二次募集に諦めずに応募していれば、望みはまだあると思います。

### 教養試験の勉強について

教養試験は大学受験と同じように様々な勉強方法があります。完全に司書志望であれば、予備校やリバティアカデミーの教養試験対策講座のみを受講するのも手だと思います。予備校の通信講座などもあるようです。私は『公務員試験受験ジャーナル』やウェブサイト、先輩方の合格体験記などを見て自分に合う勉強方法を考えた結果、独学で勉強することにしました。私にはまんべんなく学ぶのではなく、苦手分野を集中的に学ぶことが必要だと感じたためです。具体的な勉強方法としては、苦手だと感じた分野のテキストを読んで理解し、問

題集を解いて知識を定着させていきました。また、東京都の教養試験や国立大学法人の一次試験は時間がぎりぎりだったように思います。そのため、過去問を解く際は時間を計ることをおすすめします。自分には苦手分野の補填をするという方法が一番効率的でしたが、自分に合う勉強方法を見つけるようにするのが一番です。先ほど述べた参考資料を用いて自分に必要な勉強は何かを考えるのが良いと思います。

### 専門試験について

国会図書館は専門試験の科目が選べます。問題を見たところ文学の方が解けると感じたため、私は文学で受験しました。国会図書館は3年間分の過去問をウェブサイトで公開している上にWARPでもっと遡って過去問を入手できるので、それを見て対策をすると思います。院試を受ける友人の話を聞いて、レベルとしては院試に近いのではないかと思ったため、少し院試を見たりもしました。次に図書館情報学の専門試験について述べます。形式としては東京都と神奈川県は記述式で、国立大学法人と埼玉県は多肢選択式でした。これらの過去問もウェブサイトやWARPで入手することができます。それぞれに特徴があるため、過去問を見て分析すると思います。勉強については、私は主に『司書もん』と授業のプリントやノートを用いて行いました。『司書もん』でポイントを押さえ、授業のプリントやノートで詳しく学んでいきました。ネット上には様々な司書の方が解説しているページもあるので、それらも参考になります。『司書もん』や過去問のキーワードを自分で説明できるようになると完璧だと思います。

### 面接試験について

面接試験は一般企業や他の公務員の面接とあまり変わりありません。志望動機や入職後にしたいことなどが聞かれます。また、自分の長所や短所、自己アピールなどもほぼ必ず聞かれました。これらの質問の答えを自分の経験から導き出せると説得力のある答えになります。そのため、よく就職活動対策として言われることではありますが、まずは大学生活で何かに取り組む経験を持つことがやはり重要だと思いました。また実際に何をどう話すかについては、練習や実際の面接をこなすことが一番の対策になりました。模擬面接は、キャリアセンターや東京しごとセンターを利用しました。東京しごとセンターは東京都の運営している施設で、無償で誰でも就職サポートが受けられます。キャリアセンターと違い、担当者がついて相談にのってくれます。また、私は一般企業を受けなかったのですが、今振り返ると受けておけば数少ない司書職のチャンスをより無駄にすることは無かったと思います。面接に自信のない方は特に司書職の試験を受ける前に、実際の面接を経験しておくことをおすすめします。国立大学法人について述べると、一次試験の合格発表がされてから各大学への応募までの期間が1週間ほどと短いうえ、同時に3、4校を準備しなくてはいけないため、合否が分かる前から準備しておく必要があります。大学によってはこの期間に職場見学会をしてくださるところもあります。ほとんどは普通の面接でしたが、ある1校では面接試験の一次がプレゼンテーション面接でした。事前に課題が出され、提出した資料をもとに10分ほどのプレゼンテーションを行った後に質疑応答が行われました。

## さいごに

以上、私の経験をお話させていただきました。参考にならない部分も多々あると思いますが、少しでも何らかの助けになれば幸いです。司書の採用試験は遅い時期にあり、周りが就職活動を終える中でなかなか結果が出ないと焦ることもあると思います。そんなときは休みを入れることも重要です。私は国立大学法人を受ける中で地方

に行くことが多かったため、面接後に観光をすることで、次の面接に向かうための気持ちの切り替えを行っていました。友人と会うことや他の人に相談することも、良い息抜きになると思います。息切れしないよう適度に休みを挟みつつ、ぜひ周りのサポートも活用しながら就職活動を進めてください。良い結果が出ることをお祈りしています。